

(1)新入寮生の土佐寮紹介

『土佐寮の紹介』

東京大学1年

この文章を読んで頂いている皆様は、この土佐寮に何らかの関わりのある方だと思います。場合によっては皆様の方が、入寮して一年も経っていない我々よりも土佐寮について熟知されているかも知れません。また、この文章を書いているのは10人以上いる一年生の中から選ばれた数人にすぎないので、あくまでこの文章が土佐寮の一部分しか扱っていないことをおことわりしておきます。

1952年に現在の場所に移転してから63年。東京土佐寮は幾度の改築改修を経て現在に至っています(そのようなことは皆様の方がお詳しいかもしれませんね)。昨年改修されたばかりというなかでも、残念ながら築50年以上の北寮は様々な部分で外見的なほころびを見せているのは確かです。耐震診断をクリアしているのが不思議なくらいです。南寮も、平成8年生まれの僕の5つ年上なもので、なんだかんだ言ってもこれから先が心配になる頃です。もちろん風呂場や食堂はここ数年の改修の甲斐もあってものすごく綺麗で、入寮当初もかなり驚かされました。けれども、一部の怠惰な学生のせいで、また風呂場の掃除がおろそかになり、せつかくのOBの皆様などの尽力が無駄になってしまうのではと危惧しております。

さて、7月のことですが、関東のおんちゃん会の皆様が来寮され、額装された寮歌の歌詞及び楽譜を我々に寄贈してくださいました。OBの皆様は、自分たちのいた頃の寮を思い出しつつ、今はその存在すら寮生に知られていない寮歌を歌っていました。必ず歌いはじめの音頭は「いち、に、さん」ではなく「ein、zwei、drei」という(現寮生から見ると)奇妙なこだわり、OBの入寮時期の違いから生じるテンポの微妙なズレも、土佐寮の長い歴史を感じるものでした。

そういえばこの土佐寮にも、過去の寮生が作ったwebサイトがあるのは皆様ご存知でしょうか。あのサイトも出来て10年近く経とうとしていますが、僕もあのサイトを少し更新してみたいです。ああ、機械音痴は損ですよ。ともあれ、今はもう、そのサイトを作った情報処理委員という役職も存在しません。

これら、一見何の関係もなさそうな2つのことについて思うことがあります。それは寮を作る際、施設や制度といったハード面だけでなく、大事なはその寮を形成する寮生、つまり人間そのものというソフト面なのではないか…ということです。今こ

の寮が成り立っているのはもちろん改修したての施設があり、寮費などの資金があるからです。でもそれでは成り立ちません。もちろん寮生全員が全員寮生自治に積極的に参加するべきとは思いません（あくまで我々は大「学生」です！）。でも寮生のほとんどが寮生自治に、また寮生同士の交流に無関心になった時、この寮は命日を迎えます。綺麗事かもしれませんが、この寮に入ってそのことをひしと感じることが多くなりました。

とは言いつつも、やはり皆様のお力添え抜きにはこの寮は成り立ちません。我々も寮生として寮勢高揚のためにもソフト面整備には力を入れますので、どうか皆様、引き続きハード面でのご協力をお願いいたします。

『 土佐寮に入寮して 』

東京農工大 1 年

僕が半年間土佐寮で生活してきて思ったことを率直に書こうと思います。

僕が土佐寮でいいと思ったところは四点あります。

まず一つは立地です。最寄り駅までは徒歩 15 分、バイト帰りなんかは結構きついですが、井之頭公園を通過して吉祥寺を通過していく道は楽しいです。それに、僕の通う農工大は自転車で通学できる距離にあるため、交通費もかからないのでかなり助かっています。

二つ目は食事が出ることです。実家ではあたり前のように食事が出てきていたので、わかりにくかったのですが、毎日料理人さんに作っていただいていることで、食事を提供してもらえるありがたみが実感できました。なので、たまに実家に帰って食うメシは最高と感じるようになりました。

土佐寮のいいところの三つ目は、運営が寮生の自治によって成り立っているという点です。具体的には、去年、土佐寮内に女子を入れてもよいという、男子寮としては異例の制度が採用されました。まあ、この制度自体の善し悪しはともかく、こういう異例の改革を起こしてしまう自治には、寮生が暮らしやすくなることに加え、長い歴史を持つ土佐寮の未来にも期待が持てます。

四つ目のいいところは、僕にとってこれが最もいいところなのですが、それは、いつでも友達、しかも高知県人に会えるということです。

上の四点が、僕が土佐寮っていいなと思ったことです。

翻って、土佐寮のここが嫌だなと思ったところを書きます。

それはこの一点だけです。寮っぽくない。もはやアパートです。それは近年の土佐寮のよさこいを見てももらえればわかると思いますが、なんだか足並みがそろわない...そんな印象です。でも、それは土佐寮の悪いところとは一概には言えないと僕は思うので、あえて“嫌なところ”と書きました。でも、僕は、もっと寮生が縦も横も親密に付き合っ、寮生活を送ることで、土佐寮生という特別な関係を持てる場所であってほしいなと思います。せつかく、東京にある高知県人のための学生寮、なんて特別な場所に住んでいるので、特別な思い出を寮生と共有したいです。

ここまで、僕は土佐寮の現状について触れてきましたが、これからのことを考えると、今のままでは、OB になって寮の前をたまたま通った時、しみりしたりするかというと、しないでしょう。残念なことではありますが...

でも僕は、寮がより寮らしい、楽しい寮になるよう、自治会で働きかけていこうと思っています。大学生らしからぬ幼稚な乱文で失礼しました。

『 土佐寮の生活について 』

中央大学 1 年

月日の経つのは早いもので、東京に出て来て、あっという間に半年余りが過ぎました。まず、土佐寮の最寄り駅は吉祥寺です。吉祥寺は、若い人たちに人気があり、最近のアンケート調査では、「住んでみたい街ナンバー1」にいつもランクされています。

そんな吉祥寺の駅から徒歩 15 分ほどに土佐寮はあります。吉祥寺駅には JR 中央線と京王井の頭線が通っており、乗り換えなしで、新宿や渋谷に遊びに出られるので、大変便利です。また、吉祥寺駅周辺にはヨドバシカメラ、ユニクロや丸井などの大きな店が多くあるので、ほとんど不自由なく寮生活ができると思います。

土佐寮の生活について 3 つほど紹介させていただきます。

1 つ目は、毎日の食事についてです。寮での食事は、日曜日、祝日、夏休みなどの長期休暇以外の日に朝・夕の 2 食出ます。朝夕ともに 6 時半から 9 時までの間にオーダーすると、調理人さんが温かい料理を出してくれます。部活やアルバイトなどで、どうしても 9 時までに寮に帰ることができない日は、「取り置き食」を予約しておけば、遅くなくても、レンジでチンすれば食事にありつけます。

2つ目は、苦手な洗濯についてです。洗濯機が寮の共用スペースに6台あり、無料で使えます。また、乾燥機が2台ありますが、こちらは30分回すと100円が必要です。

3つ目は、寮生の個人の部屋についてです。土佐寮は、北寮と南寮に分かれています。1年生は、入寮して3週間は北・南寮の1階で2人1部屋の相部屋生活です。昔は、この相部屋生活が普通であったようですが、正直、この3週間は辛かったです。その期間が過ぎれば、南寮に個人の部屋が与えられます。部屋は6畳ほどの広さです。少し狭いと思われるかもしれませんが、僕にとっては十分なスペースであり、快適に暮らしています。

次に、寮生活における仕事の割り当てと規則とについてご紹介します。1年生が行わなければならない仕事は、主に風呂掃除と庶務当番の2つがあります。風呂掃除は1カ月に1回ほど1人で行わなければならないので、力を入れて床をこすらないといけませんので、なかなかの重労働であり、時間も結構かかります。庶務の仕事は定期的に行われ、寮内の共用スペースに放置された私物やゴミなどを撤去することが主な仕事です。当番をサボるとペナルティがありますが、真面目にやる人、そうでない人がいますので、やむを得ないものだと思っています。

また、寮内の規則は事細かく定められており、ここでは端折りますが、「挨拶をきちんとする」「夜中に廊下で騒がない」とか「共用スペースに私物を置かない」など、共同生活を送るうえでの基本的なことは、総会の場などで寮生一同再確認し合っています。

最後に、よさこい祭りについてです。1年生は必ず参加しなければなりません。練習は6月から週2回のペースで行われます。踊りをマスターするまでは少し大変でしたが、本番は祭りを楽しむことができ、良い思い出作りができたように感じました。